

丹沢ボラネット瓦版

2019年9月号 No.105



四十八瀬川上流付近(休耕地・里地・里山・里川の様子)

令和元年度丹沢大山ボランティアネット講演会

去る6月29日、糸長浩司先生を講師にお招きし、「里山文化の意義と丹沢大山里山再生」と題し、丹沢大山ボランティアネットワーク講演会を開催しました。

講演会にはボラネット各団体や、自然公園指導員、フィールドスタッフの皆様など49人が参加、会の終わりには活発な質疑も行われました。



写真 講演会の様子

講師紹介 糸長浩司先生

日本大学生物資源科学部生物環境工学科特任教授、工学博士、環境建築家。2004年の丹沢大山総合調査から、丹沢大山自然再生委員会に参加、同調査では地域再生チーム長を務め、その後も、継続的に丹沢大山の自然再生にお力添えをいただいています。また、原発事故被害地の福島県飯館村で、事故・震災前から20年近くにわたり、その村づくりをご指導されるなど、自然と共生した社会デザインに取り組みられています。



写真：糸長浩司先生

講演会の流れ

- (1) 世話人会代表挨拶、講師紹介
- (2) 講演
 - 里山とは何か
 - 飯館村での取り組みと現状
 - 丹沢大山自然再生について
- (3) 質疑
- (4) 閉会



写真：世話人会代表挨拶

糸長先生のお話

失礼を承知で先生のお話から印象に残った点などを以下に記載します。筆者の捉え方、解釈で記載している点、ご容赦ください。

○ 里山とは何か

- ・ 里山とは、縄文時代から自然を人為的にかく乱し、持続的に利用された二次的自然。狩猟採集だけではなく、焼き畑など一定の栽培、定住行為が行われ、生産と生活の場であった。
- ・ 特に日本には本当の原生自然は少なく、過去に人為的にかく乱（利用）がなされてきた自然が大半である。また、世界と比べて、日本の縄文文化（＝狩猟採集主体の生活）の期間はとても長い。
- ・ 里山は、かつては徹底的に資源利用され「禿山」状態だった。入会（いりあい）として共同的な利用のルールがあったほか、幕府による規制もあった。
- ・ かく乱の頻度や動植物の数や量が異なる多様な状態が空間的にバランス

よく存在している状態が、持続的かつ循環的で目指す姿。「極相」といった状態は自然状態でも、限定的な姿。

- ・丹沢大山自然再生で目標と掲げている状態への到達は、(今のままでは)実現は無理ではないか。何千万円の投資を永續できる仕組みがなく、「なりわい」による保全、環境と経済の両立の視点が不可欠である。

○飯館村での取り組みと現状

- ・飯館村では、住民と行政の協働による村づくりの歴史があった。村民によるコミュニティビジネス、分散型再生可能エネルギーの導入 など。
- ・震災後は深刻な放射能汚染に村民は今も翻弄され続けている。
- ・限定的な除染をもって一部で帰還が始まったが、山林の空間線量は高いまま。表土や樹木(特に樹皮)にはセシウムによる汚染が深刻。であるにも関わらず、帰還困難区域を除いて山林への立ち入りはまったく規制されていない。
- ・こうした現状が正しく報道されず、適切な補償もなされないまま、高齢者など一部が帰村し始めている。
- ・例えば、村では放射能で汚染された里山産の薪が自給的に利用されている実態があり、また、安全性の確保が不十分なまま汚染土壌の再利用の試行が始まりつつある。
- ・放射能汚染に対する基準、規制や対策がうやむやのまま、「帰還」「生活」「生産」を求められている国民がいるという事実を、もっと知るべきである。

○丹沢大山自然再生について

- ・土地所有者と都市的住民との協働化、継続的な組織化が課題。
- ・継続的な活動の例として四十八瀬川自然村の活動を紹介。
- ・神奈川県では水源の森林づくりの取り組みにより森林づくりを行っているが、小規模の人工林等は対象とはならず、手が付けられない森林が一定数必ず存在する。NPO など小規模、協同的な活動は必ず必要とされている。
- ・こうした活動や団体が、永續的に収益を得て、活動費や人件費を得られる、その活動のために定住しようとする人を養える、だけの経済活動が必要。
- ・四十八瀬川自然村の活動は、土地所有者からも高い期待と評価がある一方、団体自体の高齢化や、団体と土地所有者双方の代替わり(相続)により今までのような活動が継続されるか、等を不安視する所有者もいる。



- ・トピックとして「協同労働による協同組合法人化」の動きと「土地基本法改正」による空き地対策の動き。

質疑

Q:放射能に対して国の無策、国民の無関心について改めて認識しました。我々は何をすべきでしょうか。

A:神奈川県でも他人事ではない。公表されているデータも多く、そのデータの見方も含めて、国民はもっと学ばなければならない。

Q:川の自然の保全活動(環境活動)をしています。特に小規模な川は、現在の都市的な生活においてはそこから経済的な利益を得ている人はなく(生産の場でもなく)、また、管理や所有の考えもあいまいで、経済性はありません。こうした活動では、環境活動と経済活動の両立といっても難しいのではないのでしょうか。

A:直接その環境活動に関連した経済活動である必要はない。環境活動に投資できる資金を別の経済活動から得られれば良い。例えば、経済的にある程度余裕がある市民が、仕事等で得られた所得の一部を投じて環境活動に取り組んだ事例は、これまで多かったのではないか。ただし、「退職後に貯金と年金で行う」といった活動だけでは持続性が無い。活動が継続できる、雇用が生まれるような資金獲得の仕組みも必要だと思う。

丹沢大山ボランティアネットワーク講演会アンケート集計結果

① この講演会のテーマはいかがでしたか？

非常に良かった	18
良かった	22
普通	4
悪かった	0
非常に悪かった	0

② 講演会の内容についてはいかがでしたか？

よく理解できた	9
理解できた	27
普通	5
あまり理解できなかった	4
全く理解できなかった	0

登山環境意識調査実施中

丹沢大山ボランティアネットワークでは、丹沢大山地域を登山やキャンプ等で訪れた方を対象として、利用の実態や目的、自然環境保全意識などの把握を目的とするアンケート調査を実施しています。丹沢大山地域を訪れる皆様は、ぜひご回答ください。

実施期間 : 令和元年6月から11月まで(予定)

協力 : 丹沢の緑を育む集い実行委員会・自然環境保全センター

右のQRコードからボラネットホームページにジャンプ。アンケートの回答もこちらからどうぞ。



丹沢大山ボランティアネットワーク団体の行事予定

西丹沢の自然にふれあう会



2019年6月例会 西丹沢ビジターセンター（雨天、散策）

◆ 月例清掃登山

「西丹沢の自然にふれあう会」では毎月、清掃登山を行っています。

軽いハイキングができる方、どなたでも参加大歓迎です。

10～12月の予定は、次のとおりです。

集合の後、今回はバスを利用して目的地に向かいます。

詳細はお問い合わせ下さい。 mnumano@jcom.home.ne.jp 沼野正睦

月 日	行先	集合
10/26 (土)	ヤビツ峠→岳ノ台→菩提峠→ヤビツ峠 (周遊)	8時 秦野駅北口
11/23 (土)	A:丹沢湖→神縄トンネル上→大野山→谷峨 B:丹沢湖→ダム広場 (ピストン)、丹沢湖周辺	8時 新松田駅北口
12/21 (土)	仏果山登山口→高取山→仏果山 (ピストン)	8時 本厚木駅

北丹沢山岳センター

●国道 20 号線クリーン活動

10 月 13 日(日)10:00～12:00 吉野花だまり 現地集合・解散

●神ノ川林道広河原周辺登山道の下草刈・清掃活動

11 月 17 日(日)8:00～15:00 神ノ川ヒュッテ 現地集合・解散

連絡先 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980

丹沢ボラネット瓦版2019年9月号(通巻105号)9月30日発行
丹沢 大山ボランティアネットワーク世話人会代表 小林 昭五